

取組に至った背景①

一大崎圏域精神障害者地域移行・地域定着支援事業の取組一

平成26年度

地域支援会議やワーキング等をとおして地域課題と対策を整理

機関連携の課題
(ネットワークの数・質等)

共有する場の設定や連携パス作成等

支援者の課題
(支援への苦手意識等)

研修会や事例検討会等

障害者・家族・地域の課題
(地域の不十分な理解等)

日々のケースワークや啓発等

社会資源・制度の課題
(地域の受け皿の不足等)

自立支援協議会での検討等

精神障害者の支援者の 資質向上に向けて

-地域支援者が主体的・継続的に取り組んだ事例検討会-

北部保健福祉事務所(大崎保健所)母子・障害第二班

技師 三浦 詩織, 技術次長 高橋 みね, 主任主査 遊佐 亜希子,
技術主査 前田 知恵子, 技師 逸見 怜菜

1

取組に至った背景②

一大崎圏域精神障害者地域移行・地域定着支援事業の取組一

平成27年度～

地域課題の一つである関係機関連携の課題に焦点をあて、地域連携パス(ここさぼ)を作成・周知

連携課題の解消の声と同時に、関係機関の役割の理解の不十分さ、精神障害者支援に対する苦手意識に関する声も・・・

平成28年度末の地域支援会議

今後、地域の精神障害者支援に対する苦手意識の改善に向けて取組むことについて合意形成

3

目的・方法

必要なこと

地域支援者の苦手意識の軽減に向けた地域で持続可能な社会資源(事例検討の場)の創出

目的

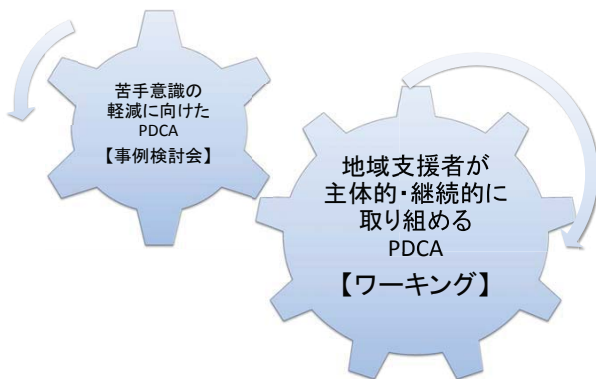
精神障害者支援の資質向上に向けた社会資源をつくり、それを続けることができる体制を確保する

方法

1. 地域支援者の代表者から成るワーキングの設置
2. ワーキングメンバー主体の企画・運営

4

2つのPDCAサイクルの連動



5

ワーキングの立ち上げ

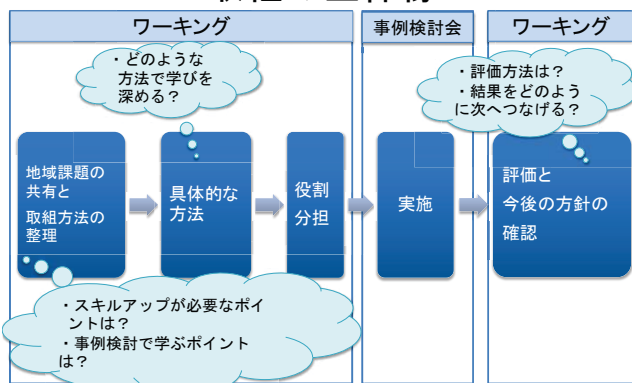
地域支援会議での合意形成

ワーキングの設置

1. 検討内容: 多職種連携事例検討会の企画・運営
2. 留意点:
 - ・多職種を混在→様々な視点からの意見
 - ・多すぎない人数→意見の言いやすさ, 集約のしやすさ
3. 構成メンバー: 管内の市町保健師, 医療機関, 相談支援事業所の代表者, 援護寮職員を含む13名
4. 事務局: 大崎保健所

6

取組の全体像



7

メンバーの主体性を引き出すために

メンバーが取組を自分事のできる仕組みづくり

1. 地域の現場の困り事に焦点をあてた
2. 取組の目的を繰り返しメンバーで共有
3. メンバー主体のグループワークをメインに検討
4. 地域で実際に取組んでいること等についてもメンバーから情報提供いただきながら進行
5. 検討が行き詰まった場合でも、保健所が一手に引き受けず、メンバーが悩み・考える場を設定

8

事例検討会を継続的な取組にしていくために①

多職種連携事例検討会を地域課題に即した形で無理なく継続させる体制づくり

1. ワーキングで地域課題に即した効果的な方法を検討
2. 多職種の相互理解や協働の場の設定
3. 事例提出者に還元が大きい支援者支援に主眼を置く
4. 楽しい、心地よい雰囲気づくり
5. 全体ファシリテーターのシナリオ作成による運営側の心理的な負担軽減と進行の平準化

9

取組による結果①

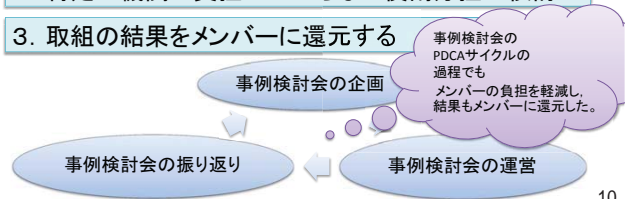
1. ワーキングメンバーが事業の次の展開に主体的に意見を出すようになった。
2. 全体ファシリテーターのシナリオ作成
 - ↓
 - 敬遠されていた全体ファシリテーターの役割が分担
 - ↓
 - 特定の機関に負担が偏らない取組方法が確立

11

事例検討会を継続的な取組にしていくために②

メンバーの負担を減らし、効果を強調してフィードバック

1. メンバーの負担感ができるだけ少ない運営方法
2. 特定の機関に負担がかからない役割分担の検討
3. 取組の結果をメンバーに還元する



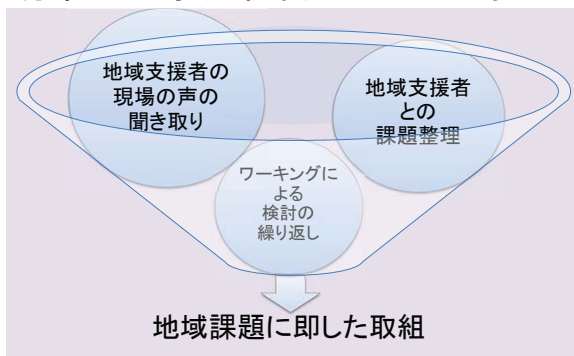
10

取組による結果②

3. ワーキングの中での一体感が芽生え、地域支援者が主体的に取組を継続するための土台ができた。
4. 多職種連携事例検討会の方法が確立されてきている。

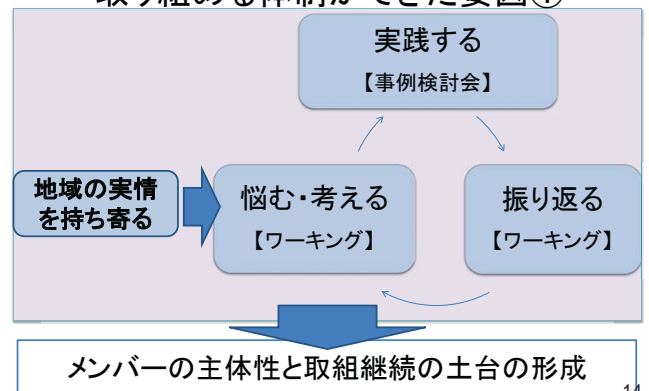
12

効果的な事例検討会となった要因



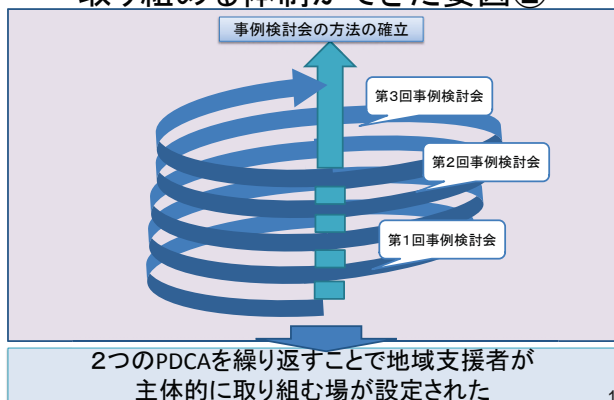
13

地域支援者が主体的・継続的に取り組める体制ができた要因①



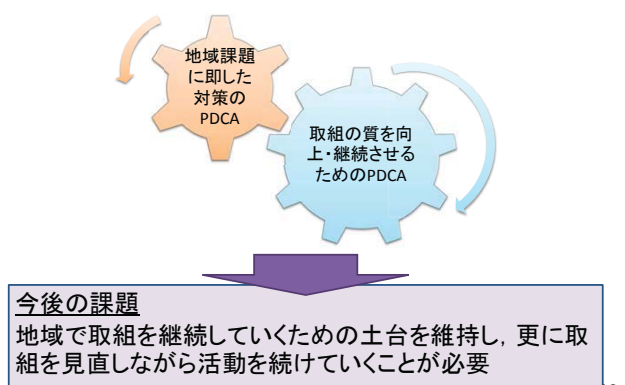
14

地域支援者が主体的・継続的に取り組める体制ができた要因②



15

今後も地域で取組を継続していくために



16

活動に御協力いただきました
関係機関の皆様、
所内の皆様に
感謝申し上げます。

ご静聴ありがとうございました。